

# 宇土市地域学校協働活動便り

## ゆい 「結」

No.3

R5.6.9  
発行

宇土市教育委員会  
生涯活動推進課  
生涯学習係  
文責：中村 敬人  
TEL 0964-22-6510

### 第1回地域学校協働活動推進事業運営委員会を開催しました

5月25日（木）に令和5年度第1回運営委員会を開催し、活動の方針をご承認いただきました。今年度の活動方針は以下の通りです。

- 1 これまで各学校で実施されていた地域の支援を得た教育活動の再開と充実
- 2 ボランティアの確保と活用
- 3 本活動の趣旨理解を図る積極的な啓発活動  
○学校と地域、双方向から交流活動の推進＝「地域学校協働活動」  
長続きする活動を目指して  
「できる人が」「できる時に」「できるだけのこと！」

### 「今度は、いつ来てくれるの？」

今年度の各学校での活動が始まりました。先月は、実際の収穫活動を支援したり、さつまいもの苗植えの様子を取材したりしました。特にさつまいもの苗植えでは昨年度同様に推進員を中心に多くのボランティアの方々が参加されていました。植えるまでの畑の耕しから畝づくり、そして、マルチ張りが事前にしてあり、苗を植え付ける長さを考慮して穴が開けてありました。児童は、楽しそうに苗植えを体験することができました。その様子を傍らで見守られるボランティアの方々の嬉しそうな表情が印象的でした。

ふと、昨年度のことを思い出しました。

昨年度の支援活動の様子を拝見して感じたことは、活動のすべてをボランティアの方が担うのではなく、子供たち自らが解決できる作業は子供たちにさせられていることです。教育活動の一環である以上、その活動を通して子供たちに身に付けさせたい能力が必ずあるはずで、したがって、担当の先生とそのことを事前に確認して共通理解を図りながら双方向から子供たちの活動を支援することが大切です。

体験活動を通して、子供たちは達成感を味わい、やがてそのことが自信へとつながっていきます。まさに「生きる力」を育むことを目的とした活動となるわけです。

そして、四苦八苦しながらも達成感を味わうことができた子供たちの笑顔に優しく応えられるボランティアの方々の笑顔が、この取組の狙いの一つでもあります。そのことで、ボランティア同士のつながりがさらに深まります。結果、「学校を核とした地域づくり（住民同士のつながり）」を目指す活動へと発展していくこととなります。

支援活動を終え、帰り際のボランティアの方々への子供たちからの声掛け、

「今度は、いつ来てくれるの？」この言葉が次の活動へとつながる魔法の言葉のように聞こえます。これも双方向からの交流の一つではないかと思えます。

今年度もそれぞれの学校で前述したような光景が、支援活動を通して、子供たちだけでなく先生方との間でもたくさん見られる一年になることを期待しています。

**地域学校協働活動は、学校と地域が協働・連携して双方向で取り組む活動です。**